

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

午前の部

登録販売者試験

(平成27年 9月 5日 (土) 実施)

試験問題

医薬品に共通する特性と基本的な知識・・・問 1 ～ 問 20
 主な医薬品とその作用・・・・・・・・・・・・問21 ～ 問 60

注意事項

- 試験開始のアナウンスがあるまで、問題を開かないこと。
- 試験監督員のアナウンスにより、問題用紙の表紙に受験番号を記入するとともに、解答用紙に氏名及び受験番号（6桁）を記入すること。
 (注) ①受験番号は、算用数字で記入すること。
 ②解答用紙の「受験番号記入欄」には、受験番号に対応した数字をマークすること。
- 問題用紙は、表紙を除いて31ページある。試験開始後、乱丁等がないかを確認し、異常があるときは速やかに試験監督員に申し出ること。
- 各問題について、答えを一つ選び、その番号のカッコの中全体をHBより濃い黒鉛筆で濃くぬりつぶすこと。(下記(例)参照)

(例)【問150】

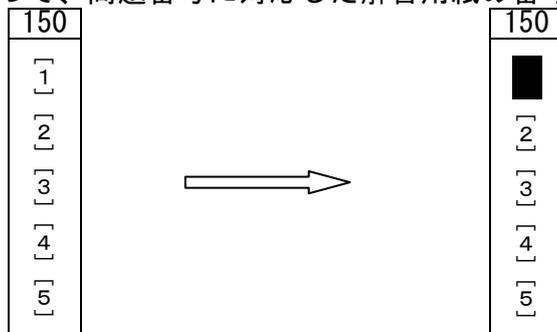
次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. $1+1=2$ である。
- b. $5-3=3$ である。
- c. $1\times 2=2$ である。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

aは正、bは誤、cは正であるから、正しい答えは「1」となる。

よって、問題番号に対応した解答用紙の番号「150」欄の「1」を塗りつぶすこと。



なお、答えを修正した場合は、必ず消しゴムであとが残らないように完全に消すこと。鉛筆のあとが残った場合は、修正または解答したことにならないから注意すること。

- 解答用紙の<注意事項>もよく読んでおくこと。

医薬品に共通する特性と基本的な知識

【問1】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は本来、人体にとっては異物（外来物）である。
- b. 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑かつ多岐に渡るが、一般用医薬品については、そのすべてが解明されている。
- c. 医薬品である殺虫剤の中には、誤って人体がそれに曝^{さら}されれば健康を害するおそれがあるものもある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問2】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- b. 購入者が、一般用医薬品を適切に選択し、適正に使用するためには、薬剤師や登録販売者が関与し、専門用語を分かりやすい表現で伝えるなどの適切な情報提供を行うことが不可欠である。
- c. 一般用医薬品は、市販後にも安全性の確認が行われる仕組みにはなっているが、有効性の確認が行われる仕組みにはなっていない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	正	正	誤

【問3】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. WHO（世界保健機関）の定義によれば、医薬品の副作用とは、「疾病の予防、診断、治療のため、又は身体の機能を正常化するために、人に通常用いられる量で発現する医薬品の有害かつ意図しない反応」とされている。
- b. ヒトを対象とした臨床試験における効果と安全性の評価基準には、国際的に Good Clinical Practice（GCP）が制定されており、これに準拠した手順で安全な治療量を設定することが新規医薬品の開発に関連する臨床試験（治験）の目標の一つである。
- c. 医薬品に対しては、製造販売後の調査及び試験の実施の基準として Good Vigilance Practice（GVP）と製造販売後安全管理の基準として Good Post-marketing Study Practice（GPS）が制定されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

【問4】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アレルギーには、体質的な要素はあるが、遺伝的な要素はない。
- b. 医薬品によるアレルギーは、薬理作用等とは関係なく起こり得る。
- c. 医薬品の添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）とはならない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問5】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 副作用は、眠気や口渇等の比較的良好に見られるものから、日常生活に支障を来す程度の健康被害を生じる重大なものまで様々である。
- b. 副作用は、容易に異変を自覚できるものばかりでなく、血液や内臓機能への影響等のように、直ちに明確な自覚症状として現れないこともある。
- c. 一般用医薬品は、通常、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先される。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問6】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品の不適正な使用には、使用する人の誤解や認識不足に起因するものがある。
- b. 一般用医薬品には、習慣性・依存性のある成分を含んでいるものがあり、それらの医薬品が乱用されることがあるので、注意が必要である。
- c. 一般用医薬品は作用が著しくないので、乱用を繰り返しても、慢性的な臓器障害等までは生じない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問7】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。
- b. 副作用や相互作用のリスクを減らす観点から、緩和を図りたい症状が明確である場合には、なるべくその症状にあった成分のみが配合された医薬品が選択されることが望ましい。
- c. 外用薬は、食品によってその医薬品の作用や代謝の影響を受けることが全くない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問8】

医薬品の使用上の注意等において、乳児、幼児、小児という場合のおおよその目安として用いられている年齢区分について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

	乳児	幼児	小児
1	3歳未満	7歳未満	15歳未満
2	3歳未満	5歳未満	15歳未満
3	1歳未満	5歳未満	12歳未満
4	1歳未満	7歳未満	15歳未満
5	3歳未満	5歳未満	12歳未満

【問9】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 酒類（アルコール）をよく摂取する者では、一般的に肝臓の代謝機能が高まっていることが多く、体内から医薬品が速く消失して十分な薬効が得られなくなることがある。
- b. カフェインを含む医薬品とコーヒーと一緒に摂取すると、カフェインの過剰摂取となることがある。
- c. 一般用医薬品において、かぜ薬と鎮咳去痰薬^{がい たん}では、成分や作用が重複することが多く、通常、併用は避けることとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問10】

高齢者に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害^{えん}）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。
- b. 持病（基礎疾患）を抱えていることが多く、一般用医薬品の使用によって基礎疾患の症状が悪化する場合がある。
- c. 医薬品の使用上の注意等において「高齢者」という場合には、おおよその目安として65歳以上を指す。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 1 1】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品において、多くの場合、妊婦が使用した場合における安全性に関する評価は困難である。
- b. 便秘薬には、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- c. 授乳婦が医薬品を使用する場合、通常の用量であれば、母乳を介して乳児が医薬品成分を摂取することはない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	正	正
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 1 2】

次の a ~ c の () に入れるべき字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に (a) によらない作用を生じることをプラセボ効果 ((b) 効果) という。プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待 (暗示効果) や、条件付けによる生体反応、時間経過による (c) な変化等が関与して生じると考えられている。

	a	b	c
1	薬理作用	偽薬	意図的
2	生理作用	相乗	自然発生的
3	生理作用	偽薬	意図的
4	薬理作用	相乗	意図的
5	薬理作用	偽薬	自然発生的

【問 1 3】

医薬品の品質に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 医薬品は、高温、多湿、直射日光等の下に置かれることのないように保管・陳列に留意される必要がある。
- b. 医薬品は、適切な保管・陳列をすれば、経時変化による品質の劣化は起こらない。
- c. 医薬品は、剤型や包装形態にかかわらず、開封して使用を開始した後も、表示されている「使用期限」まで品質が保証される。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 1 4】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 「セルフメディケーション」には、専門家による適切なアドバイスの下、身近にある一般用医薬品を利用する考え方がある。
- b. 医薬品販売等に従事する専門家が行う情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結びつけるのではなく、医療機関の受診を勧めたり（受診勧奨）、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。
- c. 一般用医薬品で対処可能な範囲は、乳幼児や妊婦等、医薬品を使用する人によって変わってくるものである。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 15】

医薬品販売等に従事する専門家が一般用医薬品販売時に行うコミュニケーションに関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 情報提供は、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているかなどの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まる。
- b. 必ずしも情報提供を受けた購入者本人が医薬品を使用するとは限らないことを踏まえ、販売時のコミュニケーションを考える必要がある。
- c. 購入者側に情報提供を受けようとする意識が乏しい場合には、コミュニケーションを図る必要はない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 16】

登録販売者の対応に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 一般用医薬品を使用する人が、過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験がないことを確認した。
- b. かぜ薬の購入者（患者）に対し、一定期間使用しても症状が改善しない場合には、倍量のかぜ薬を服用するよう説明した。
- c. 一般用医薬品を使用する人が、医療機関で治療を受けていないことを確認した。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 17】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. サリドマイドは、貧血用薬として承認された。
- b. サリドマイドの副作用として、血管新生を妨げる作用がある。
- c. サリドマイドによる薬害事件は、世界的に問題となったため、WHO（世界保健機関）加盟国を中心に市販後の副作用情報の収集の重要性が改めて認識され、各国における副作用情報の収集体制の整備が図られることとなった。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 18】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. スモンの原因物質であるキノホルム製剤は、当初、結核の特効薬として販売されていた。
- b. スモン訴訟は、キノホルム製剤を使用したことにより、亜急性脊髄視神経症に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- c. サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問19】

次の記述の（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

HIV訴訟は、（ a ）患者が、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）が混入した原料血漿から製造された（ b ）製剤の投与を受けたことにより、HIVに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

	a	b
1	白血病	血液凝固因子
2	白血病	免疫グロブリン
3	血栓症	免疫グロブリン
4	血友病	血液凝固因子
5	血友病	免疫グロブリン

【問20】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※ CJDとはクロイツフェルト・ヤコブ病をいう。

- a. CJDの原因は、ウイルス感染によるものである。
- b. CJDは、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- c. CJD訴訟は、国、輸入販売業者及び製造業者を被告として提訴された。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

主な医薬品とその作用

【問 2 1】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. かぜの約 8 割は細菌の感染が原因である。
- b. エテンザミドが配合されたかぜ薬は、水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっている 15 歳未満の小児への使用を避ける必要がある。
- c. トラネキサム酸には、凝固した血液を溶解する働きがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 2 2】

次の a～d の漢方処方製剤のうち、かぜの症状の緩和に用いられ、構成生薬としてカンゾウ及びマオウを含む製剤の正しい組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 葛根湯かっこんとう
- b. 小青竜湯しょうせいりゅうとう
- c. 小柴胡湯しょうさいことう
- d. 柴胡桂枝湯さいこけいしとう

1. (a , b) 2. (a , d) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問 2 3】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アスピリンは、体内でのプロスタグランジンの産生を促進する成分である。
- b. アセトアミノフェンは、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- c. 芍薬甘草湯しゃくやくかんそうとうは、体力に関わらず、筋肉の急激な痙攣けいれんを伴う痛みのあるものこむらがり、筋肉の痙攣けいれん、腹痛、腰痛に適するとされている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 2 4】

解熱鎮痛薬に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 痛みや発熱を一時的に和らげる対症療法ではなく、その原因を根本的に解消することを目的としている。
- b. 頭痛の症状が軽いうちに服用すると効果的であるが、症状が現れないうちに予防的に使用することは適切でない。
- c. イブプロフェンは、潰瘍性大腸炎やクローン氏病（クローン病）の既往歴がある人が服用した場合、これらの疾患の再発を招くおそれがある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問25】

睡眠改善薬及びその配合成分に関する次の1～5の記述について、誤っているものを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等が原因であり、抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬の主な適用対象となる症状ではない。
2. 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
3. 15歳未満の小児では、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は原則、避けることとなっている。
4. 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として、慢性的に不眠症状がある人を対象としたものである。
5. 抗ヒスタミン成分を主薬とする睡眠改善薬の場合、目が覚めたあとも、注意力の低下や寝ぼけ様症状、判断力の低下等の一時的な意識障害、めまい、倦怠感^{けん}を起すことがあるので注意が必要である。

【問26】

カフェインに関する次のa～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

カフェインは、脳に（ a ）興奮状態を引き起こす作用を示し、一時的に眠気^{けん}や倦怠感を（ b ）効果がある。

また、安全使用の観点から留意すべき作用として、胃液の分泌を（ c ）させる作用や、心筋を興奮させる作用などがある。

	a	b	c
1	軽い	促す	亢進 ^{こうしん}
2	軽い	抑える	亢進 ^{こうしん}
3	軽い	抑える	抑制
4	強い	促す	亢進 ^{こうしん}
5	強い	抑える	抑制

【問27】

鎮^{うん}暈薬（乗物酔い防止薬）に配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- b. スコポラミン臭化水素酸塩水和物（スコポラミン臭化水素酸塩）は、抗ヒスタミン成分であるメクリジン塩酸塩と比べて作用の持続時間が短い。
- c. 乗物酔いの発現には不安や緊張などの心理的な要因による影響も大きく、それらを和らげることを目的として、ブロムワレリル尿素のような鎮静成分が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問28】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤は、古くから伝統的に用いられているため、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用は全くない。
- b. カンゾウは、小児の疳^{かん}を適応症とする生薬製剤では主として健胃作用を期待して用いられる。
- c. 小建中湯^{しょうけんちゅうとう}は、体力虚弱で疲労しやすく腹痛があり、血色がすぐれず、ときに動悸^き、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿及び多尿などを伴うものの小児虚弱^{じやく}体質、疲労倦怠、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜なきに適すとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問29】

鎮咳去痰薬に配合される成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. トリメトキノール塩酸塩水和物（トリメトキノール塩酸塩）は、交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- b. ジプロフィリンは、自律神経系を介さずに気管支の平滑筋に直接作用して弛緩させ、気管支を拡張させる働きがある。
- c. メチルシステイン塩酸塩は、痰の切れを良くすること（去痰作用）を目的として用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問30】

口腔咽喉薬やうがい薬（含嗽薬）に用いられる次のa～dの成分のうち、殺菌消毒作用を目的として配合されるものの最もふさわしい組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. グリチルリチン酸二カリウム
- b. デカリニウム塩化物
- c. グリセリン
- d. ポビドンヨード

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (a , d) 4. (b , c) 5. (b , d)

【問 3 1】

胃の薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 胃粘膜保護・修復成分として、テプレノンが配合される場合がある。
- b. 消化管内容物中に発生した気泡の分離を抑制することを目的として、ジメチルポリシロキサン（別名ジメチコン）が配合されている場合がある。
- c. ピレンゼピン塩酸塩水和物（ピレンゼピン塩酸塩）は、消化管の運動にほとんど影響を与えずに胃液の分泌を抑える作用を示すとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

【問 3 2】

次の a～c の記述は止瀉成分^{しゃ}について述べたものである。該当するものの正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 収斂作用^{れん}のほか、腸内で発生した有害物質を分解する作用も持つとされる。
- b. 腸管の運動を低下させる作用を示し、胃腸鎮痛鎮痙薬^{けい}との併用は避ける必要がある。
- c. 殺菌作用のほか、局所麻酔作用もあるとされる。

	a	b	c
1	アクリノール	ロペラミド塩酸塩	ヒマシ油
2	アクリノール	ビサコジル	木クレオソート ^{もく}
3	次没食子酸ビスマス ^{もつしよくし}	ビサコジル	ヒマシ油
4	次没食子酸ビスマス ^{もつしよくし}	ロペラミド塩酸塩	木クレオソート ^{もく}
5	次没食子酸ビスマス ^{もつしよくし}	ロペラミド塩酸塩	ヒマシ油

【問33】

センノシドの主な薬理作用の説明として最もふさわしいものを、次の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. 腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収れん斂）。
2. 結腸での水分の吸収を抑えて、糞便のかさを増大させる働きがあるとされる。
3. 胃や小腸で消化されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して瀉下作用をもたらすと考えられている。
4. 腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。
5. 消化管（胃及び腸）の平滑筋に直接作用して、消化管運動を調整する作用（消化管運動が低下しているときは亢進的に、運動が亢進しているときは抑制的に働く。）があるとされる。

【問34】

胃腸鎮痛鎮痙薬に関する次の記述について、a～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

※なお、同じアルファベットの欄には同じ字句が入ります。

急な胃腸の痛みは、主として胃腸の過剰な動き（痙攣）によって生じる。消化管の運動は（ a ）系の刺激によって亢進し、また、（ a ）系は胃液分泌の亢進にも働く。そのため、（ a ）の伝達物質である（ b ）と受容体の反応を妨げること、その働きを抑える成分が、胃痛、腹痛、さしこみ（疝痛、癢）を鎮めること（鎮痛鎮痙）のほか、胃酸過多や（ c ）に対する効果も期待して用いられる。

	a	b	c
1	交感神経	アセチルコリン	便秘
2	交感神経	アドレナリン	胸やけ
3	副交感神経	アドレナリン	便秘
4	副交感神経	アセチルコリン	胸やけ
5	副交感神経	アセチルコリン	便秘

【問35】

駆虫薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、消化管内容物の消化・吸収に伴って駆虫成分の吸収が高まることから、空腹時に使用することとされているものが多い。
- b. カイニン酸は、回虫に痙攣^{けいれん}を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排泄させることを目的として用いられる。
- c. サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示すとされている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	正

【問36】

次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. センソは、シカ科のマンシュウアカジカ又はマンシュウジカの雄のまだ角化していない、若しくは、わずかに角化した幼角を基原とする生薬で、強心作用の他、強壯、血行促進等の作用があるとされている。
- b. ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢^{のう}中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。
- c. リュウノウは、ウグイスガイ科のアコヤガイ、シンジュガイ又はクロチョウガイ等の外套膜^{とう}組成中に病的に形成された顆粒状物質を基原とする生薬で、鎮静作用等を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問 37】

次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 高密度リポタンパク質（HDL）とは、コレステロールを肝臓から末梢組織へと運ぶリポタンパク質である。
- b. 高コレステロール改善成分であるポリエノスファチジルコリンは、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- c. 高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの^{そう}瘦身効果を目的とする医薬品である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 38】

貧血用薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 鉄製剤を服用すると便が黒くなることがある。
- b. 補充した鉄分を利用してヘモグロビンが生産されることを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。
- c. ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問39】

ユビデカレノンに関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、別名ビタミンB₆とも呼ばれる。
- b. 軽度な心疾患により日常生活の身体活動を少し越えたときに起こる動悸^き、息切れ、むくみの症状に用いられる。
- c. 1カ月以上使用して症状の改善が認められない場合であっても、長期間継続して使用することが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問40】

次の表は、ある一般用医薬品の用法及び用量と、それに含まれている成分の一覧である。

この一般用医薬品の効能又は効果として、最もふさわしいものを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

用法及び用量

次の量を水又はお湯で服用してください。

[年齢：1回服用量：1日服用回数]

15歳以上：2カプセル：3回。4時間以上の間隔をおいて服用して下さい。

8歳以上15歳未満：1カプセル：3回。4時間以上の間隔をおいて服用して下さい。

8歳未満：服用しないで下さい。

6カプセル中

デキストロメトルフアン臭化水素酸塩水和物	60mg
ノスカピン	60mg
リゾチーム塩酸塩	60mg（力価）
dl-メチルエフェドリン塩酸塩 （メチルエフェドリン塩酸塩）	75mg
無水カフェイン	90mg
添加物（略）	

1. 咳を鎮め、痰の切れを良くする
2. 胃痛、胸やけの改善
3. 乗物酔いによるめまい・吐き気・頭痛の予防及び緩和
4. 禁煙時のイライラ感、集中困難、落ち着かない等のニコチン離脱症状の緩和
5. 滋養強壮、虚弱体質の改善

【問4 1】

外用痔疾用薬に配合される次の a～d の成分のうち、抗炎症成分に該当するものの正しい組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. グリチルレチン酸
- b. ヒドロコルチゾン酢酸エステル
- c. リドカイン
- d. ベンザルコニウム塩化物

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問4 2】

泌尿器用薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 竜胆瀉肝湯^{りゅうたんしゃかんとう}は、構成生薬としてカンゾウを含んでいる。
- b. ウワウルシ（ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬）は、利尿作用のほかに、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。
- c. 猪苓湯^{ちゆれいとう}は、体力に関わらず、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適するとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	正	正	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問43】

婦人薬に関する次の a～c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. エチニルエストラジオールは、妊婦が摂取しても全く問題がない。
- b. エストラジオールは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが考えられ、母乳を与える女性では使用を避けることが望ましいとされている。
- c. 柴胡桂枝乾姜湯さいこけいしかんきょうとうは、まれに重篤な副作用として、間質性肺炎を生じることが知られている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問44】

アレルギー用薬に関する次の a～d の記述について、正しいものの組み合わせを下の 1～5 から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アゼラスチンは、肥満細胞から遊離したヒスタミンが受容体と反応するのを妨げることにより、ヒスタミンの働きを抑える作用を示す。
- b. パンテノールは、依存性がある成分であり、長期間にわたって連用された場合、薬物依存につながるおそれがある。
- c. フェニレフリン塩酸塩は、副交感神経を刺激して、血管を収縮させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的としている。
- d. ジフェンヒドラミン塩酸塩は、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (a , d) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問45】

スプレー式鼻炎用点鼻薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ナファゾリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- b. クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、アレルギー性でない鼻炎に対して効果が高い。
- c. ベンザルコニウム塩化物は、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌又はカンジダ等の真菌類に対する殺菌消毒作用を示し、結核菌にも効果がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問46】

点眼薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. コンタクトレンズをしたままでの点眼は、ソフトコンタクトレンズ、ハードコンタクトレンズに関わらず、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。
- b. 点眼後は、数秒間、眼瞼（まぶた）を閉じて、薬液を結膜嚢内^{のう}に行き渡らせるが、その際、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのを防ぐことができ、効果的とされる。
- c. 点眼の際には、容器の先端を眼瞼^{けん}（まぶた）につけて、薬液が確実に目の中に入るように注意しながら1滴ずつ正確に点眼することとされている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問47】

点眼薬に配合される成分とその作用の関係が正しいものの組み合わせを下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

成分	作用
a. ネオスチグミンメチル硫酸塩	コリンエステラーゼの働きを抑える
b. ビタミンB ₆	血管を収縮させて目の充血を除去する
c. 硫酸亜鉛水和物（硫酸亜鉛）	新陳代謝を促し、目の疲れを改善する
d. コンドロイチン硫酸ナトリウム	結膜や角膜の乾燥を防ぐ

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (a , d) 4. (b , c) 5. (c , d)

【問48】

外皮用薬に配合される抗炎症成分のうち、ステロイド性抗炎症成分を次の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

1. ケトプロフェン
2. デキサメタゾン
3. フェルビナク
4. インドメタシン
5. ピロキシカム

【問49】

みずむし・たむし用薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. テルビナフィン塩酸塩は、菌のDNA合成を阻害することにより、その増殖を抑える。
- b. オキシコナゾール硝酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げたり、細胞膜の透過性を変化させることにより、その増殖を抑える。
- c. 湿疹^{しん}か皮膚糸状菌による皮膚感染かはっきりしない場合には、抗真菌成分が配合された医薬品が第一選択薬として使用される。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	正	正	誤

【問50】

歯槽膿漏^{のう}薬に配合される次のa～dの成分のうち、止血成分に該当するものの正しい組み合わせを次の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. フィトナジオン（ビタミンK₁）
- b. アミノ安息香酸エチル
- c. カルバゾクロム
- d. チモール

1. (a , b) 2. (a , c) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問5 1】

次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 口内炎の再発を繰り返す場合、ペーチェット病などの可能性も考えられるので、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- b. 口内炎用薬に配合されるアズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、患部からの細菌感染を防止することを目的としている。
- c. 口内炎用薬に配合されるシコンは、口腔^{くわう}粘膜の組織修復促進、抗菌などの作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問5 2】

咀嚼^{そしやく}剤である禁煙補助剤に関する次の a ~ c の記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 口腔^{くわう}内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔^{くわう}内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。
- b. 大量に使用しても禁煙達成が早まるものでなく、かえってニコチン過剰摂取による副作用のおそれがあるため、1度に2個以上の使用は避ける必要がある。
- c. 噛^かむことにより、口腔^{くわう}内でニコチンが放出され、口腔^{くわう}粘膜から吸収されて循環血液中に移行する。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	正	正	正
5	誤	誤	正

【問53】

ビタミン成分に関する次のa～dの記述について、正しい組み合わせを一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. ビタミンB₂は、脂質の代謝に関与し、皮膚や粘膜の機能を正常に保つために重要な栄養素である。
- b. ビタミンEは、体内の脂質を酸化から守り、細胞の活動を助ける栄養素であり、血流を改善させる作用もある。
- c. ビタミンDの過剰症としては、低カルシウム血症が知られている。
- d. ビタミンC主薬製剤は、目の乾燥感、夜盲症（とり目）の症状の緩和に用いられる。

1. (a , b) 2. (a , d) 3. (b , c) 4. (b , d) 5. (c , d)

【問54】

滋養強壮保健薬に用いられる成分に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. アミノエチルスルホン酸（タウリン）は、細胞の機能が正常に働くために重要な物質であり、肝臓機能を改善する働きがあるとされる。
- b. システインは、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を抑える働きがあるとされる。
- c. ヘスペリジンは、ビタミン様物質のひとつで、滋養強壮保健薬のほか、かぜ薬等にも配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問55】

漢方処方製剤に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 漢方薬はすべからく作用が緩やかで、副作用が少なく、重篤な副作用は起きない。
- b. 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- c. 防風通聖散は、構成生薬としてマオウを含む。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問56】

次の記述に該当する生薬を下の1～5から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

- 1. ブシ
- 2. レンギョウ
- 3. カッコン
- 4. ボウフウ
- 5. ブクリョウ

【問57】

消毒薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. クレゾール石鹼液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルスに対して比較的広い殺菌消毒作用を示す。
- b. エタノール（消毒用エタノール）は、アルコール分が微生物のタンパク質を変性させ、結核菌を含む一般細菌類、真菌類に対する殺菌消毒作用を示す。
- c. 次亜塩素酸ナトリウムは、アルカリ性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問58】

殺虫剤に関する次のa～cの（ ）に入る字句の正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

フェニトロチオンは（ a ）系殺虫成分であり、殺虫作用は、アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と（ b ）に結合してその働きを阻害することによる。

高濃度又は多量に曝露した場合（特に、誤って飲み込んでしまった場合）には、神経の異常な興奮が起こり、（ c ）、呼吸困難、筋肉麻痺等の症状が現れるおそれがある。

	a	b	c
1	有機リン	可逆的	散瞳
2	有機リン	不可逆的	縮瞳
3	有機リン	可逆的	縮瞳
4	カーバメイト	不可逆的	散瞳
5	カーバメイト	可逆的	散瞳

【問59】

尿糖・尿タンパク検査に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 出始めの尿では、尿道や外陰部等に付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、中間尿を採取して検査することが望ましい。
- b. 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で弱酸性～中性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- c. 尿糖値に異常が生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿のように高血糖を伴わない場合もある。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問60】

妊娠検査薬に関する次のa～cの記述の正誤について、正しい組み合わせを下表から一つ選び、その番号を解答用紙に記入しなさい。

- a. 絨毛細胞が腫瘍化している場合には、妊娠していなくてもヒト絨毛性性腺刺激ホルモン（hCG）が分泌され、検査結果が陽性となることがある。
- b. 尿中hCGの検出反応は、hCGと特異的に反応する抗体や酵素を用いた反応であるため、温度の影響を受けない。
- c. 妊娠が成立していたとしても、正常な妊娠か否かについては、妊娠検査薬による検査結果では判別できない。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	正
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤